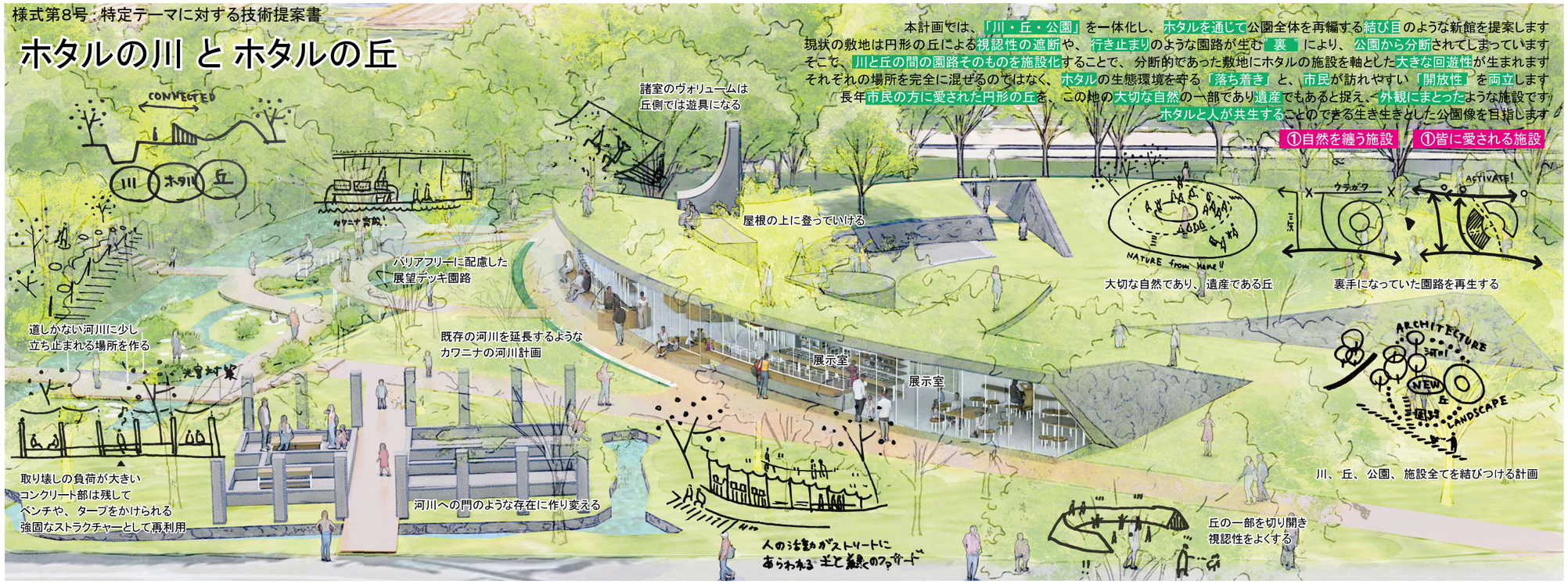
様式第8号：特定テーマに対する技術提案書

受付番号 1

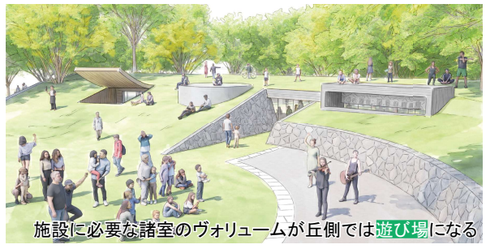
ホタルの川 と ホタルの丘

本計画では、「川・丘・公園」を一体化し、ホタルを通じて公園全体を再編する結び目のような新館を提案します
現状の敷地は円形の丘による視認性の遮断や、行き止まりのような園路が生む"裏"により、公園から分断されてしまっています
そこで、川と丘の間の園路そのものを施設化することで、分断的であった敷地にホタルの施設を軸とした大きな回遊性が生まれます
それぞれの場所を完全に混ぜるのではなく、ホタルの生態環境を守る「落ち着き」と、市民が訪れやすい「開放性」を両立します
長年市民の方に愛された円形の丘を、この地の大切な自然の一部であり遺産でもあると捉え、外観にまとったような施設です
ホタルと人が共生することのできる生き生きとした公園像を目指します

①自然を纏う施設　①皆に愛される施設



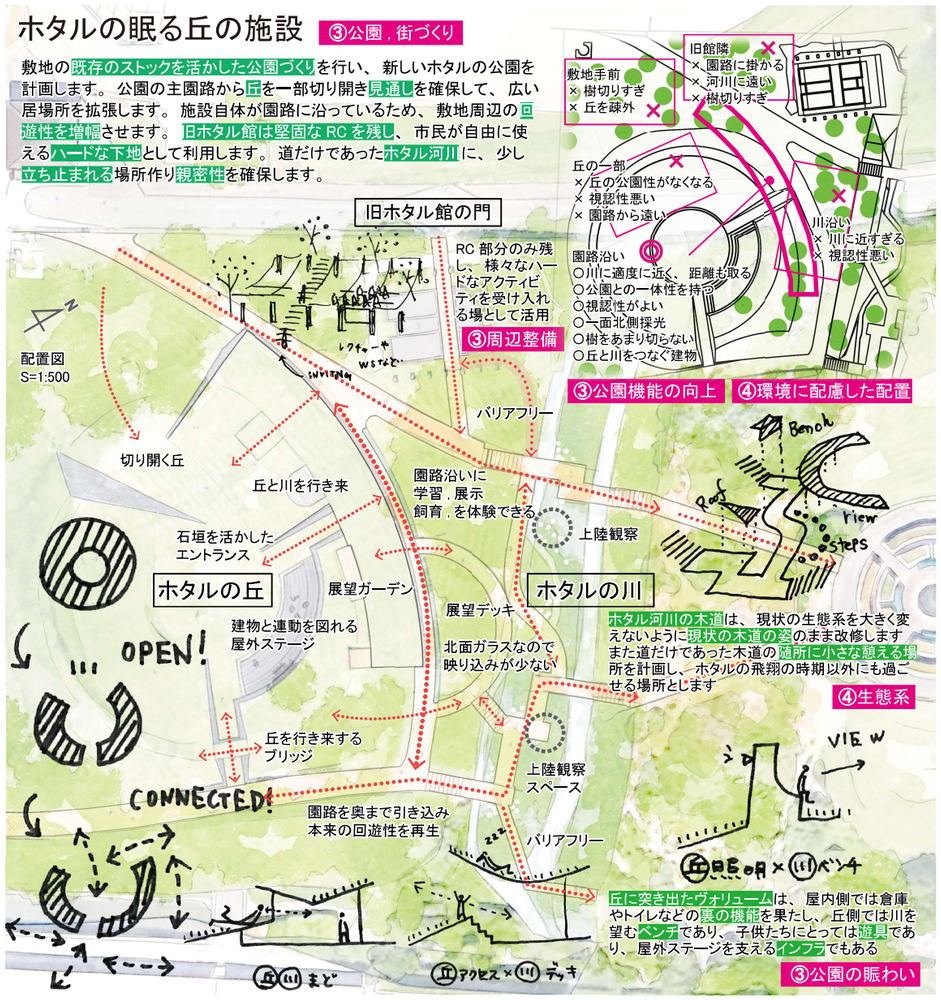
見通しが良くなり活動が繋がる


施設に必要な諸室のヴォリュームが丘側では遊び場になる

生き生きとした展示に応答する柔軟な展示空間

ホタルの眠る丘の施設　③公園，街づくり

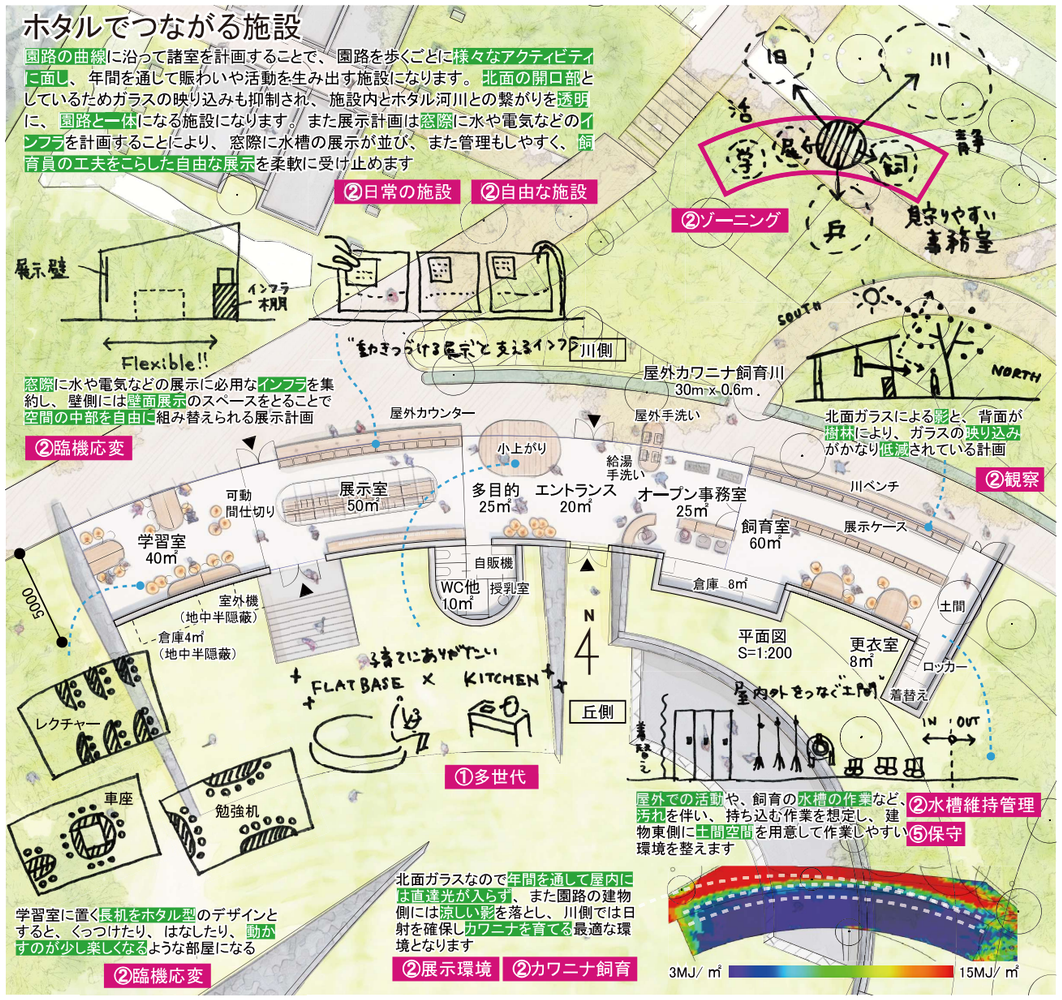
敷地の既存のストックを活かした公園づくりを行い、新しいホタルの公園を計画します。公園の主園路から丘を一部切り開き見通しを確保して、広い居場所を拡張します。施設自体が園路に沿っているため、敷地周辺の回遊性を増幅させます。旧ホタル館は堅固なRCを残し、市民が自由に使えるハードな下地として利用します。道だけであった河川に、少し立ち止まれる場所作り親密性を確保します。



ホタルでつながる施設

園路の曲線に沿って諸室を計画することで、園路を歩くごとに様々なアクティビティに面し、年間を通して賑わいや活動を生み出す施設になります。北面の開口部としているためガラスの映り込みも抑制され、施設内とホタル河川との繋がりを透明に、園路と一体になる施設になります。また展示計画は窓際に水や電気などのインフラを計画することにより、窓際に水槽の展示が並び、また管理もしやすく、飼育員の工夫をこらした自由な展示を柔軟に受け止めます

②日常の施設　②自由な施設



ずらっと並ぶ水槽と、触れられる水辺としてのカワニナ河川

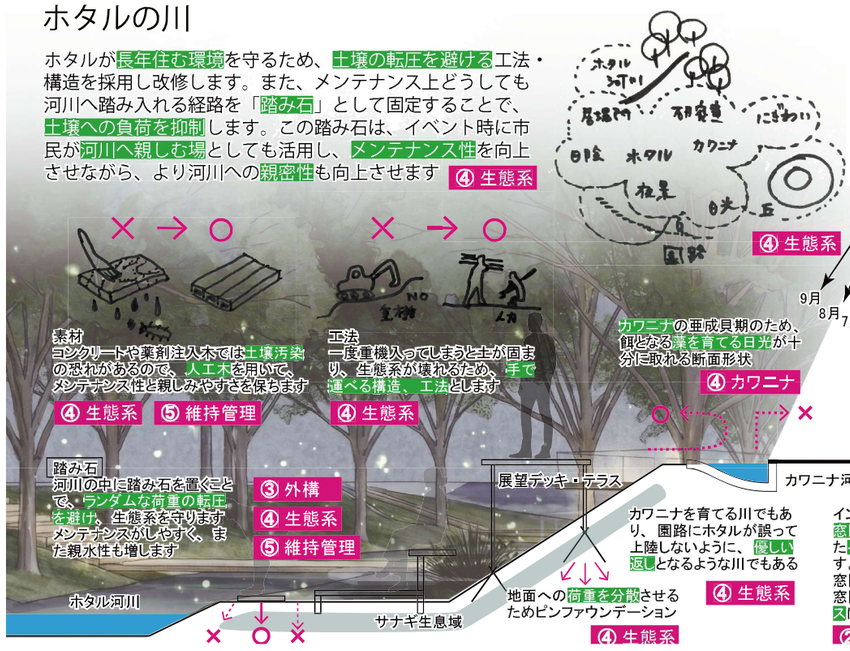
川と丘を自由に行き来する施設

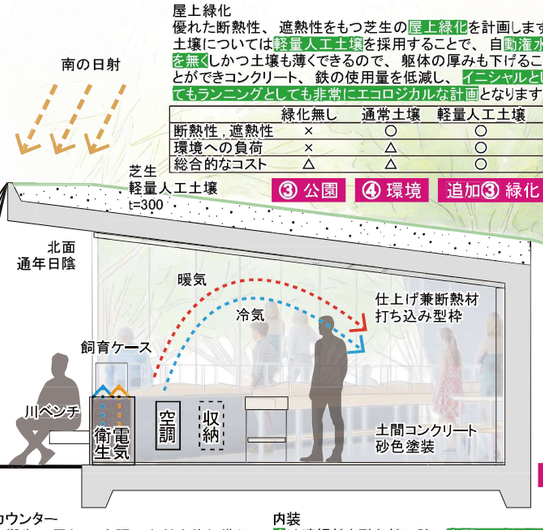
既存の木道に様々な小さな居場所をアタッチする

公園と一体化を強めたホタル施設は守山市の新しい名所となる

ホタルの川

ホタルが長年住む環境を守るため、土壌の転圧を避ける工法・構造を採用し改修します。また、メンテナンス上どうしても河川へ踏み入れる経路を「踏み石」として固定することで、土壌への負荷を抑制します。この踏み石は、イベント時に市民が河川へ親しむ場としても活用し、メンテナンス性を向上させながら、より河川への親密性も向上させます　④ 生態系

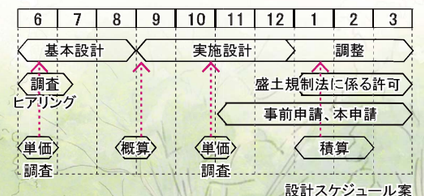




屋上緑化
優れた断熱性、遮熱性をもつ芝生の屋上緑化を計画します
土壌については軽量人工土壌を採用することで、自動灌水を無くしかつ土壌も薄くできるので、躯体の厚みも下げることができコンクリート、鉄の使用量を低減し、イニシャルとしてもランニングとしても非常にエコロジカルな計画となります

	緑化無し	通常土壌	軽量人工土壌
断熱性，遮熱性	×	○	○
環境への負荷	×	△	○
総合的なコスト	△	△	○

③ 公園　④ 環境　追加③ 緑化



コストコントロール
各設計フェーズに合わせて、こまめに市場単価や物価上昇を見越してコストと計画を見合わせます。減額の必用が出た際には、必用な減額の規模に応じた適切な減額案を採用していきます。大小様々な減額の方策が受け入れられる柔軟な建築計画だからこそできるコストコントロールです。

追加② コスト

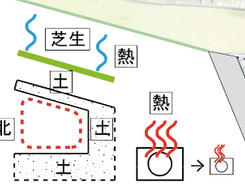
一面ガラス張りな状態から、機能性をもった壁面とすることで、計画の良さを保ちながら減額可能です

シンプルな架構形式、ゾーニングのため、大きなコスト調整をする際に、面積調整による減額を速やかに実行可能です

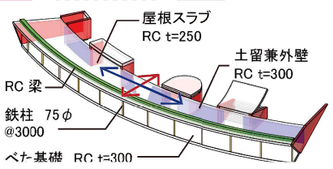
屋根面を RC 造＋植栽から、木造＋乾式床の計画にすることにより、性能を維持しつつも減額可能です

ホタル河川の改修は大規模な工事ではなく、小さな改修計画とするため、次年度移行から少しづつ改修することも可能です

環境性能
本建物は三辺を土壌で囲まれているため、非常に高い断熱性を持ち、年間を通して安定した温熱環境を保ちます
室内環境が安定しているので、空調機の負荷を下げ、周辺環境への排熱を低減し、環境に配慮します



追加① 夏　④ 周辺環境

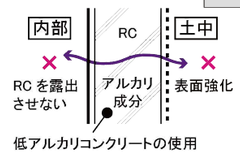


インフラカウンター
窓際に、衛生、電気、空調、収納を兼ね備えたインフラの機能を果たすカウンターを計画します。　これにより展示や飼育に必用なインフラが窓際に整い、屋内を自由に使用できます。また窓際にまとめることで、屋内外のインターフェースになります。

② 展示運用　⑤ 効率性

内装
床は清掃性と耐久性に強い土間コンクリートとし、色を砂系色に統一することで、屋外からの汚れが目立たない床となります
壁は展示の自由度とメンテナンスしやすい塗装＋PB＋合板とします
天井は打ち込み型枠としなるべく建物高さを抑え、外観に現れる建物の小口を薄くし、建物の存在を屋外に馴染ませるようにします

④ 周辺への配慮　⑤ メンテナンス性

構造
長寿命に優れている RC 造を採用し、部分的に鉄骨造を取り入れることで、梁のない自由な大空間を経済的に作ります。
また低アルカリコンクリートの採用や表面仕上げを徹底し、アルカリ溶出を抑制する環境配慮型の構造計画です。

⑤ 長寿命化　④ 生態系